平成３０年度　香川県立琴平高等学校　学校評価

本校では次の教育方針のもと、本年度の重点目標を掲げ教育活動に取り組んできました。
今年度の教育活動に関して、自己評価、生徒からの授業評価、学校評価アンケート（生徒・３年保護者・教員）を実施しましたのでその結果を報告します。
また、平成３１年２月に学校関係者評価委員会を実施し、自己評価、生徒からの授業評価、学校評価アンケートの集計結果を提示し、分析と協議を行った結果、下のような学校関係者評価をいただきました。

【教育方針】
心身を鍛え、生涯にわたって学び続ける意欲を養い、地域社会の一員としての自覚と国際的視野を育み、社会の変化に主体的に対応できる心豊かでたくましい人間の育成を目指し、次のような教育方針のもと、家庭や地域との連携を図りつつ、明るく活力に満ちた学校づくりを推進する。

１．人間や自然を愛する心を養い、心ゆたかな誠意ある人間の育成に努める。
２．自主、自立の精神を養い、心身ともにたくましい熱意あふれる人間の育成に努める。
３．広く高い知性を養い、郷土を愛し、社会の発展に貢献する創意に満ちた人間の育成に努める。

【本年度の重点目標】
地域社会で活躍するたくましい人材の育成　―　地域で学び、地域で育つ琴高生　―
①基礎学力の向上　②基本的生活習慣の確立　③進路意識の高揚　④地域連携の推進

○学校関係者評価

【学校評価アンケート・生徒からの授業評価等について】
○生徒からの授業評価の結果から、予習・復習をする生徒が少ないことが分かる。アクティブ・ラーニングの導入や電子黒板の利用などで、生徒に興味を持たせ、「自分から進んで学習する」とはどういうことかを分からせる必要がある。
○授業中、教員からの質問に答えられない生徒へどう対応するか。ヒントを与えながら答えさせるなど、自分で考えるように指導する厳しさも必要ではないか。
○学校評価アンケートでは琴平高校での生活への満足度が３年生で最も高くなっている。これは琴平高校の教育効果の表れであると思う。
○保護者の学校評価に「少し厳しい指導をしてほしい。生徒が先生をナメている」という意見がある。教員が親近感のつもりで接しても生徒はそうとらない場合がある。厳しく接する場面と親しみを込める場面の使い分けが必要である。生徒は部活動の先輩に対しては敬語を必ず使っている。社会のマナーとして教員への言葉遣いを教える必要がある。

【教育活動等について】
○文化祭などの行事を参観して、生徒と参観者との距離が近く、家庭的な雰囲気があり非常に好ましい。
○郷土芸能やとらすとＫなどのボランティア活動を通じ、まぎれもない自分の体験に裏打ちされた言葉を生徒が持つようになったとのこと。体を動かし、言葉をかけてもらったことで自信に繋がっているのではないか。
○保育実習を通じての成長も見られる。異種武道大会を参観に来た幼稚園児の世話をしていた本校生が、声に驚いて泣き出した園児をさりげなく膝に抱き上げてあやしていた。本気で園児と係わろうとしている生徒が増えてきている実態がうかがえる。
○国語表現の授業で書いた文章を新聞の投書欄に投稿している。新聞の読者からの声掛けを通じ、生徒の成功体験が増えているのは好ましいことである。
○生徒の読書量を増やす工夫として、新刊書の購入に図書委員がクラスで募集した意見を反映させたり、図書室内の書籍の展示の仕方を、興味をそそるものにしたりしているのは、学校図書の活性化が求められているなかで、効果的な教育活動である。
○地域との交流で特に小学生を招待しての学校行事や、小学校への図書の読み聞かせに演劇部が行くなど、「小学生の見る高校生」に力を入れているのは、少子化のこの時代において、重要な活動であると思う。
○学校のホームページを一か月毎に更新しているのは広報活動として素晴らしいことである。今後も続けてほしい。

３　自己評価表（校務分掌、学年団）

※ 実施状況は、中間評価は９月末。Ａ＝「目標達成に向けて順調に取り組めている」，Ｂ＝「目標達成のために部分的な取り組みの見直しが必要である」，Ｃ＝「目標達成のためには大幅な取り組みの見直しが必要である」　　最終評価は１月末。Ａ＝「達成できた」Ｂ＝「かなり達成できた」Ｃ＝「達成できなかった」

分掌	本年度の重点目標	具体的取り組み（数値目標）	実施状況（中間評価）	取り組みの見直し	実施状況（最終評価）	評価と来年度の課題
教務部	生徒が興味・関心を持って授業に取り組めるようにすることで、夢の実現に向けた真の学力をつけさせる。	ＡＶ機器類の導入、ホワイトボード等を整備し、それらを活用できるような計画を企画する。活用数が増加するよう記録を行う。	B	AV 機器の導入は年次で充実してきている。今後も順次導入予定である。それらを活用した授業や、活動をいかに行うかの計画を進めていく。	B	大型のテレビなどのハード面に関しては充実してきつつある。今後、タブレット端末などの機器を充実させ、更に現在のＡＶ機器を活用できるようにする。
	地域や家庭との連携を深め、生徒と職員が一体となって活気に満ちた地域に愛される学校づくりを推進する。	ＰＴＡ総会や異種武道大会等などの学校行事を充実させる。 保護者や地域住民が参加できるような計画を行う。	C	現在行われている各行事が事前に検討する前に実施日になり、充実をさせる検討がなされていない。 来年度の事も考え、今後行事の精選も視野に入れ検討する。	B	学校行事を行い、地域の方に琴平高校を発信していくことに関して、魅力のある行事、今後地域の方が参加しやすい周知方法などを検討していく必要がある。
生徒指導部	基本的生活習慣の確立	遅刻者数の削減 （前年度比１０％減）	C	前年度比１．５倍。 遅刻者に対する事後指導のみでなく、学年集会などでの啓発を含めた事前指導を行いたい。	C	前年度比１１９％（1 月末現在） 遅刻者への指導や集会などでの啓発で中間時より幾分改善がみられたが、総遅刻数は昨年度に比べ増加した。 不注意による遅刻も多いため、学級担任と協力して指導し、規則正しい生活習慣を身につけさせたい。
		校門指導及び担任との連携強化による服装・頭髪指導の徹底	B	生活担当と担任との連携が不十分であるため、口頭での情報交換など連携を深めたい。	B	担任との情報共有などに改善がみられ、協力して指導することが増えたが、徹底までには至らなかった。

進路指導部	進路意識の高揚を図り、生徒一人ひとりの進路実現を支援する。	オープンキャンパスや進学説明会、企業見学などに積極的に参加させる。（２、３年生の参加率 50%以上）	B	進路見学会実施を機に、改めて進路意識の高揚を図り、進路について調べさせたり、オープンキャンパス等の案内を充実させ、参加を促す。	A	2 年生 54%、3 年生 82%の参加率で目標は達成できたが、1 年生は約 20%であった。来年度は低学年から進路意識の高揚を図るための対策を講じたい。また、就職希望者には応募前見学を徹底したい。
	地域の中で自分の役割を果たすために必要となる力を身につけさせる。	総合的な学習の内容を充実させる。（「社会と私」のテーマで各学年 年間20回以上実施）	B	時期や対象によって内容を充実させる必要がある。学年後半に向けて計画的に実施したい。	A	総合的な学習を各学年 20 回以上実施できた。生徒が社会と自分の関わりを知り、生き方を考える良い契機となった。来年度の総合的な探究の時間に向けてうまくつなげていきたい。
特別活動部	特別活動に積極的に参加することを推進し、協調精神や自己肯定力の育成を図る。	多くの生徒の部活動への参加を強く呼びかけ、各部の成果を校内外に発表し、生徒の励みになるよう広報活動をする。 （部活動入部率９０％以上）	A	現時点での部活加入率は９０％を超えており、広報活動についても比較的うまく実施できていると思われる。	A	現状、多くの者が部活動に加入しているが、途中で退部してしまう者も少なからずいるようだ。部活動への参加を強く呼びかけると共に、生徒が継続して部活に取組めるような手だてが必要であると思われる。 広報については、ある程度よく実施できていると思われる。生徒が励みとなるよう、更に工夫できればと思う。
	学校内外の活動を通して、よりよい人間関係を築こうとする態度を育てる。	行事の計画を早期に行い、各行事における生徒のそれぞれの役割を明確にする。 （行事後アンケートの生徒満足度８０％以上）	B	各担当によって早めに計画に取り掛かれているが、教員間の事前の確認や生徒への周知などがまだ十分でない。部会を定期的に行うなどして、もっとよく検討する。	B	事前の確認や生徒への周知などがまだまだ十分でない点がある。部会を定期的に行うなどして、もっとよく検討する。

人権同和教育部	教職員の人権問題に関する認識の深化や授業における指導力の向上を図る。	現職教育や人権・同和教育LHRの事前研修等を利用して、教職員の認識の深化を目指す。	B	LHR は計画通り実施できているが、11 月に行われる現職教育を充実した内容にしていきたい。	B	現職教育については外部講師を招いてＬＧＢＴについての講演を行った。人権･同和教育ＬＨＲについては、内容等の見直しを進めていきたい。
	地域社会や小中学校、保護者との交流などを通じて情報交換を密にし、進路保障のための協力体制を作る。	小中学校との交流や、地区で開催される行事に参加等の機会を多く持ち、地域社会との連携を図る。	B	今後実施される地域の文化祭や、小中学校との学習会に参加していく。	B	小中学校との学習会や地区関連機関との交流を通じて、さらに情報交換や、連携を進めていきたい。
保健環境部	健康な生活を送るために、健康について自ら考えて実践する力を育てる。	健康診断の結果からの病院へかかる受療率の向上のための指導、助言を行う。 （受療率 50%以上）	B	健康診断はほぼ全員が受診したが、受診後の指導助言が十分ではないように感じる。 保健室と連携して医療機関で受診するよう助言を行いたい。	C	健康な学校生活を送ることについては、概ね達成していると思われる。 健康診断での結果、受療が必要な事項が 739 件、そのうち受療した件数が 152 件　受療率 20.6%に留まった。 来年度は長期休業前などの機会を捉え、受療するよう生徒に強く指導していく。
	・ゴミの分別、校内美化を呼びかける。 ・校内を美しくするために清掃の徹底。	・校内のゴミの分別率を 80%以上にする。 ・清掃時の生徒の取り組みの向上。(取り組み率 100%)	B	ゴミの分別はおおむね良好だと技師さんからも聞いている。 生徒の清掃への取り組み方はもっともっと改善の余地があると思われる。呼びかけ、喚起していきたい。	B	ゴミの分別はおおむね良好である。 今後は 6 時間目後の清掃を全校生徒にもっと本気で取り組ませるよう具体的な方策を考え、大掃除の時に時間いっぱい使って清掃を行う指導を徹底する。

教育相談部	生徒の悩みや困り感の早期発見、早期対応を図り、支援していくことで、生徒が学習に集中できる環境を整える。	保護者の協力や理解が得られるように、学級担任や学年主任との連携やＳＣ、ＳＳＷと教育相談部員の連携体制の在り方を工夫する。	B	保護者との連携をはかり、必要な場合は医療機関との連携を実施するようにする。また、関係職員のケース会を効果的に実施し、内容を支援に生かせるようにする。	B	生徒の多様なニーズに対応する必要が生じ、保護者・医療機関との連携、校内連携の充実などできる限り行った。担任を初め、校内連携により早期に対応していきたい。
	生徒の出席状況を把握し、欠席等の原因を解明する。悩み等の解決に尽力し、規則正しい生活が送れるように支援する。	欠席・健康調査や学校生活アンケートを活用し、早期発見、早期対応につとめ、教育相談部内での連携を強化し、多面的な校内支援体制を作る。	B	不登校生徒や困り感を抱えている生徒、成績不振の生徒への対応が早期に出来るようになってきた。多面的な校内支援ができるように、関係職員の体制作りをしたい。	B	生徒支援委員会や教育相談部内での話し合いの中で、困り感を抱える生徒の情報を共有し、連携対応につなげることができた。関係職員の連絡を密にし、早期発見・早期対応にさらに努めていきたい。
教育研究部	教員の指導力の向上を図る。	現職教育での研究授業に多くの教員が参加する。 （80%が研究授業参観）	B	研究授業は予定通り行われているが、授業が重なって参観できていない教員が多い。２学期の授業で多く参加してもらうよう呼びかける。	A	82%の教員が研究授業を実施または参加をした。 来年度はより活発に研究授業後に合評会をするなどして教科間交流ができるようにしていきたい。
	学校図書館を活性化し、読書活動を推進する。	図書貸出冊数前年比 10%増。	C	夏休みの貸出冊数が減ったため、総貸出数が減少している。読書週間等を利用して生徒に働きかける。	B	2 学期以降の貸出冊数は増えており、1月時点で昨年同時期並みの冊数は達成できている。来年度は夏休み前に読書推進の広報に取り組む必要がある。

広報・渉外部	地域や保護者へ、本校の教育活動の発信を行う。	「琴高通信」の充実と年１回発行。ホームページを月１回以上更新。	A	ホームページは月１回以上更新できている。学校行事や地域と関わるボランティア中心に、引き続きできるだけ迅速に更新する。	A	ホームページの更新が行事後速やかにできた。琴高通信の発行も健闘した部活動の活躍を中心に進められている。引き続き、地域や保護者に向けて本校の教育活動の発信を行う。
	ボランティアや体験学習の機会の増加。	地域との連携の強化、ボランティア活動参加の奨励。（参加のべ２０００人以上）	B	昨年より参加者が減少している。１つの募集につき日報で２回周知を行い、生徒への参加を促す。（4 月～9 月のべ４９０人）	B	琴平高校芸術祭やクリーンアップ大作戦を通して、多くの生徒が地域に貢献できた。また、後半は部活動中心のボランティアの参加が増えたが、個人で自発的に参加する生徒が減少している。受験の際にも活かせるよう、より多くの参加を呼びかけていく。（10 月～3 月のべ８６２人） H30 年度合計　１３５２人
一年団	基本的な学習習慣を身に付けさせる	漢字テスト、英単語テストで合格できるよう、事前、事後指導をする。（合格率９３％以上）	C（1 学期末現在合格率 89%）	漢字テスト・英単語テストの予定を早めに伝え、事前学習を定着させる。事前学習の方法を、クラス間で情報共有する。	B	合格率は漢字テスト 92.3%、英単語テスト 87.6%で、目標には達しなかったが、1 学期末より改善された。学習方法も定着しつつある。来年度も高い目標を維持し、特に英単語テストの学習方法を着実に身に付けさせたい。
	提出物を確実に出せるようにする	定期考査前後の課題を確実に提出させる。（それぞれの教科・科目で提出率９５％以上）	B（提出を促せば提出率 90～95%）	未提出課題を明確にし、課題を放課後に取り組ませ確実に提出させる。部活動顧問の協力も得る。	B	提出を促すことで徐々に課題を提出できている。全員が期限までに提出できるように意識づけを徹底していく。

二年団	基礎学力の定着	・漢字・英単語テストでの不合格者を５％未満にする。 ・２学期末までの各定期考査での欠点者を５人未満にする。	C	漢字・英単語テスト前の取り組みを徹底させる。定期考査についても授業への取り組み、提出物の徹底、家庭学習等を引き続き指導する。	B	学期を追うごとに不合格者や欠点保持者は減少傾向にあるが、数値目標の達成には至らなかった。基礎学力の定着を図るために継続的な指導を粘り強く行っていく。
	進路意識の高揚	・就職先または進学先を明確にさせ、そこに進むために必要な条件や内容を全員が把握できるようにする。	B	こまめな進路情報の提供や個別の面接による助言を継続する。	B	自分の進路の方向性を決めている生徒は半数程度である。今後も進路指導部と連携しながら情報を提供し、指導を続ける。
三年団	学習習慣を確立させ自学自習の意欲・態度を培い、進路を実現する。	①漢字・英単語テストの合格率を 95%以上にする。 ②1 月末までに 90%以上の生徒が進路を確定する。	C	テストの合格率は 92%と 80%で目標には達していない。自分のためにしっかりと取り組むように呼びかけたい。	B	テストの合格率は 89%と 82%で目標には達していないが、進路に関しては、95%以上確定している。漢字・英単語テストは、自分で学習する習慣を身につけさせたい。
	基本的生活習慣を定着させる。	①制服を正しく着用させる。 ②1 年間皆勤者 30%以上を目指す。	B	服装については継続して着こなし等を注意していきたい。皆勤は 1 学期末まで 53%が皆勤である。	B	制服の着こなし等に関しては粘り強い指導を続けてきた。年間を通して欠席は少なく、30%ぐらいの者が皆勤である。制服を着る意味を理解させ、自発的な改善を期待したい。

Ｈ３０　生徒からの授業評価

（国語科）

アンケート結果

・授業に対する興味関心は多くの者が持っている。授業内容も「よく分かる」「わりと分かる」と答えた生徒が７５％を越えていた。

・予習は「あまりしていない」「していない」と答えた生徒が約８０％、復習は「あまりしていない」「していない」と答えた生徒が約７５％である。「努力不のため成績が不振である」と答えた生徒も約３０％いる。

・授業については「今のままでよい」と答えた生徒が８０％を越えていたが、授業内容について「難しい」授業の進度について「進み方が早い」と答えた生徒もいた。

今後の取り組み

・生徒の主体性や思考力・表現力を育てることを目指し、授業改善に取り組む。

・家庭学習の習慣をつけ、予習・復習を積極的に行う生徒を育てるための工夫をする。

（地歴・公民科）

授業に対する興味を持っている生徒は８割以上、内容に関しては９割程度がおおむね理解できている。一方、予習復習は、「あまりしていない」「ほとんどしていない」生徒が７割以上おり、定期テスト前の一夜漬け学習の者が多い様子である。

成績に関しては、「努力した結果良い成績を収めている」「努力に応じた成果が出ている」、とした者が６割強であるが、「努力不足で成績不振」を選んだ者も２割程度おり、自ら学習の不足を感じている者が一定数いる。

授業内容、授業進度に関しては、おおむね「ちょうどよい」と答えている。授業に対しては、今のままで良い、と答えた者がほとんどであった。

これらの結果から、日常の家庭学習に地歴公民科を取り入れている者は少ない点が問題であると考える。小テストなどを定期的に組み込むとともに、新聞やニュースなどに興味を持たせ、日常的に触れさせるための工夫をしていきたい。

（数学科）

1　生徒の現状（アンケートより）

授業に対する興味は、いつもあると時々あるを合わせて 64%、授業の内容がよく分かるとわりと分かるを合わせて 70%、予習・復習についてはいつもしていると時々しているを合わせてそれぞれ、25%と 36%であった。授業内容・進度についてちょうどよいがそれぞれ 65%と 76%、工夫がされているはいつもと時々を合わせて 91%であった。

2　取組と成果

復習をしてない生徒が多いので、学習内容の定着が不十分である。この点に関しては、小テストや確認プリントを用いて、生徒が少しでも授業前に復習をすることができるようになってきている。また、１年生のクラスでは提出物としてチャートの例題に取り組ませ苦手意識の克服に努めた。さらに、意欲の高い生徒には問題集の応用問題を解かせ、発展的な学習にも取り組ませている。

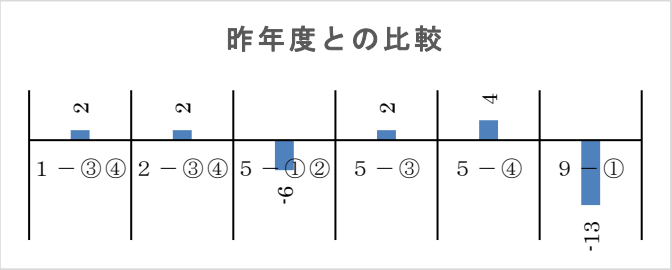
3　今後の課題

・少人数･習熟度別授業の利点を生かして、生徒に考える時間を多く与え、机間巡視で生徒のつまずきを見つけて対応していきたい。

・生徒が自分で解けたことによる喜びや達成感を与え、少しでも生徒の自信につなげていきたい。

（理科）

●現状



（グラフ中の数値の単位は%）

１－③④授業に対する興味があまりない、ない

２－③④授業の内容があまりわからない、わからない

５－①②努力した結果良い成績を収めている努力に応じた結果が表れている

５－③努力しているが結果に表れない

５－④努力不足のため成績不振

１－③④の割合の上昇と２－③④の割合の上昇は、関係性があると考えられる。内容が分からない生徒が増えたことが、５－③や④の割合の増加や９－①の減少につながったのだろう。

●改善点

・今までよりも実験や作業をできる限り取り入れて、授業に主体的に取り組める場面を増やし、興味を持たせられるような工夫をしていく。

・小テストや演習を実施したり、宿題を課したりして、復習をできる機会を設け、内容の理解と定着に努める。

（体　　育）

体育全体のまとめとしては、体育授業の興味関心は９０％以上のものはあると答えているが、
残り数パーセントのものは興味関心がないと答えている。
また、1年生にあまり興味がないと答えている割合が高く、その改善が今後の課題であろう。

（保　　健）

保健の授業に関して、７０％以上の生徒が興味関心を示しているものの、約30%の生徒があまり興味がないと答えており、授業での工夫が必要であると思われる。

生活に密着している教科であり、健康に関する重要な教科であるにもかかわらず、約3割の生徒が興味があまりないと答えているのは問題である。

講義形式の授業の見直し、アクティブラーニングを取り入れた、生徒参加型の授業の展開など、工夫した授業が今後重要になってくると思われる。

授業の進度　わかりやすさへの工夫等は９０％以上の割合でよいイメージでとらえられており、
今後も継続したい。

授業業に対する要望はとくにはなかった。

（芸術：音楽・美術・書道）

1. アンケート結果

・授業への興味・関心は選択している関係もあり高く、また意欲的に取り組めていると答える生徒が多い。

・内容についても、ちょうどよいという生徒が多いが、難しいや、やさしいと感じているものも少数いる。

・授業に対する要望として、ゆっくり進んでほしい。丁寧に説明してほしいという要望が少数だがでている。

２．今後の取り組み

・興味、関心が高い生徒が多いが、少数ではあるが取り組みに対して関心が低い生徒もいるので、その生徒たちが関心の高い生徒と同じ空間に居てもモチベーションが保たれるような授業の改善を図る。

・進度については、個々に経験が異なるので、それぞれにあった課題が選択できるようにする。

・内容についての説明を、視聴覚機器等を使い丁寧に行う。

（英語科）

７割の生徒が興味を持って授業に取り組んでいる。内容・進度は丁度よいと考えている生徒が大半である。また、生徒の理解を助ける授業の工夫がなされていると感じている生徒は９割を超えている。これは授業担当者間で授業用プリントや、授業中の活動などの工夫を共有している成果が表れていると評価できる。

しかし、授業の予習を行う生徒は２割、復習を行う生徒は３割しかいない。また、努力不足で成績が不振であると感じている生徒が３割を超えている。さらに、真面目に取り組む生徒の中に「ゆっくり進んでほしい」「丁寧に説明してほしい」という希望を持つ者がいることもわかった。

この実態を踏まえ、今後は、

・生徒が理解できたことの定着を図るべく、家庭で復習を確実に行うように宿題や小テストを増やすよう改善をしていく。

・生徒の理解を深める授業の工夫は継続して行っていく。

・意欲の高い生徒に対する個別の指導も継続して行う。

等の改善を重点的に行っていきたい。

（家庭科）

１　生徒の現状と課題

・実際に体験する授業への関心が高く、積極的に取り組めている生徒が多い。

・授業で学習した内容を実生活で活かせている生徒が少ないため、授業内容をいかに自分のものとし、定着させていくかが課題となっている。

・学年が上がるにつれ、授業内容に興味関心を持ち、目的意識を持って授業に参加できており、もっと努力したいと考える生徒が増えている。

２　課題を解決するための方策

○　講義形式の授業において五感に訴える資料等を準備し、より実感のわく授業を心がける。

○　家庭生活に関わる最新のニュースを授業の中で伝え、社会の新しい変化に対応できる力を養う。

○　授業内容を実生活に活かす具体的方法を提示し、生徒の気づきを促す。

○　できあがった作品を友だち同士で相互評価したり、展示したりする等、評価してもらえる場を増やし、達成感を味わえるよう工夫する。

（商業・情報科）

1　現状

・多くの科目で、興味・関心を持って実習に取り組めている。

・授業に対する要望は「今のままでよい」と答える生徒が多数であるが、「もっと質問の時間を取ってほしい、考える時間を取ってほしい。」という意見もある。

・コンピュータを活用した授業では、得意不得意のリテラシー格差が想定されるため本人のペースに合わせる時間を取り、余裕ある実習を実施している。

2　目標・改善点

・検定取得に向けて、基本的な計算や記帳方法から演習問題・模擬問題までを繰り返し解かせ自信を身につけさせていきたい。

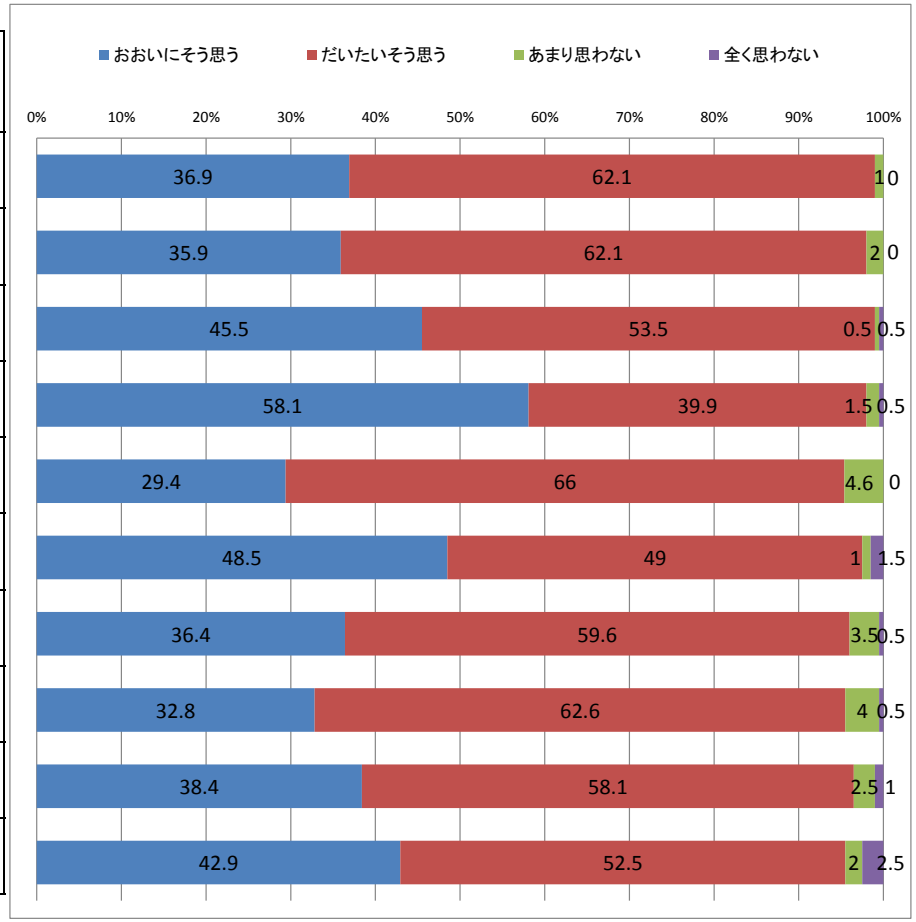
・検定受験率（受験者/申込者）や合格率（合格者/受験者）を上げる必要がある。そのためには、申込時のモチベーションを維持させることが肝要である。また、「社会と情報」（１年次）の履修時から計画的に指導を続けていくことは進路選択に資することとなり得るだろう。

・商業の学習を通じ、社会に役立つ人間形成の一助となることができれば幸いである。

平成30年度　学校評価アンケート（1年生対象）

平成31年1月実施　回答者数（198名）

		おおいにそう思う・だいたいそう思う（%）	平均値（4段階）
1	自分の適性や進路目標にふさわしいコースが設定されている。	99.0	3.4
2	個人面接、進路見学会や進路相談会などを通じて、進路について考えることができる。	98.0	3.3
3	体育祭や文化祭などの学校行事では、自発的に活動できるようになっている。	99.0	3.4
4	部活動や課外などで、放課後の時間を有意義に使うことができるようになっている。	98.0	3.6
5	ボランティア活動に参加する機会が多くあり、自主的に活動できる環境が整っている。	95.4	3.2
6	差別やいじめを許さない学習環境で、安心して過ごすことができる。	97.5	3.4
7	悩みがあれば、いつでも相談でき、アドバイスや支援を受けられる。	96.0	3.3
8	定期考査、課題テスト、漢字・英単語テストに向けて、よく頑張った。	95.4	3.3
9	授業や課外での先生方の学習指導は、熱心で適切である。	96.5	3.3
10	琴平高校での高校生活に満足している。	95.4	3.4



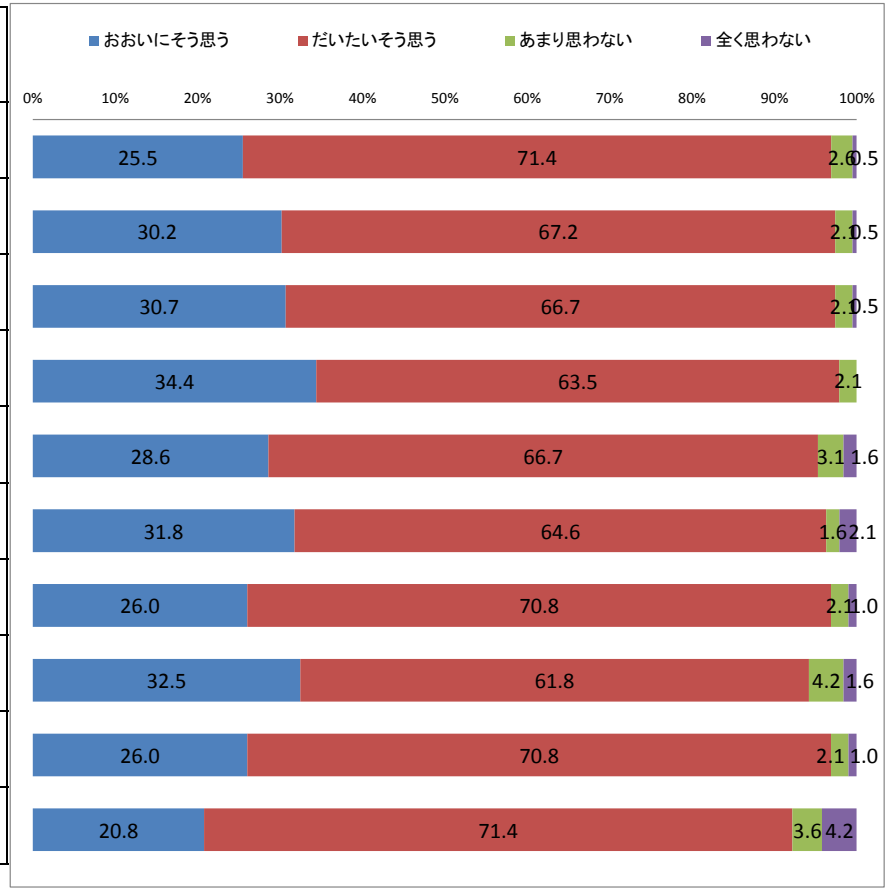
アンケートで２または１を選択した理由

1　まだ確実に決められてない
2　少し不安だから
3　まわりの目が気になってしまう
4　部活に入ってない　たまに寝てしまう時がある
5　ボランティアにはあまり参加できていないから
6　先生の見えない所では、差別等が起こっていて気になっているから
　悪口や迷惑行為をよく見るから
7　悩んだことがないから　　なかなか悩みを言えない　　相談しにくいから
8　少し勉強不足　　あまり勉強できてなかった　　手を抜いてしまった
　勉強する気にならなかった
9　教科書通りの授業が多い　　何を言っているのか分からない先生がいる
10　満足ってほどではない　　あまり楽しいと思わない

平成30年度　学校評価アンケート（２年生対象）

平成31年１月実施　回答者数（192名）

		おおいにそう思う・だいたいそう思う（%）	平均値（4段階）
1	自分の適性や進路目標にふさわしいコースが設定されている。	96.9	3.2
2	個人面接、進路見学会や進路相談会などを通じて、進路について考えることができる。	97.4	3.3
3	体育祭や文化祭などの学校行事では、自発的に活動できるようになっている。	97.4	3.3
4	部活動や課外などで、放課後の時間を有意義に使うことができるようになっている。	97.9	3.3
5	ボランティア活動に参加する機会が多くあり、自主的に活動できる環境が整っている。	95.3	3.2
6	差別やいじめを許さない学習環境で、安心して過ごすことができる。	96.4	3.3
7	悩みがあれば、いつでも相談でき、アドバイスや支援を受けられる。	96.8	3.2
8	定期考査、課題テスト、漢字・英単語テストに向けて、よく頑張った。	94.3	3.3
9	授業や課外での先生方の学習指導は、熱心で適切である。	96.8	3.2
10	琴平高校での高校生活に満足している。	92.2	3.1



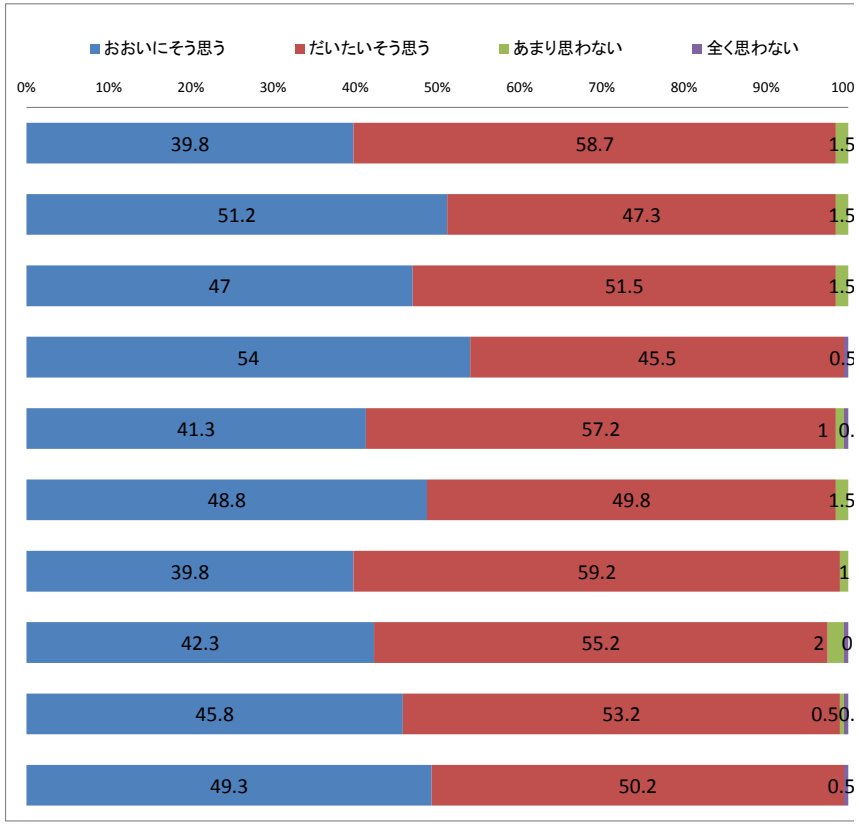
アンケートで2または1を選択した理由

1　進路目標にあっているが、適正ではない
2　そういう場が少なすぎる
3　生徒の意見に対して適切な答えが返ってこない時があるから
4　課外よりも独学の方が勉強できる
5　地元にあまりボランティアがないから参加できてない
6　ツイッターのDMで何度も嫌がらせを受けた。
　　目に見えないいじめや差別がありそうだから
　　許さない環境であっても、いじめなどが陰であるとおもうから
　　問題が起きても解決に取り組んでいるいるように見えないから
7　一部分しか聞いてもらえないから
8　勉強時間が少ない　　そんなによくなかった　　点数がひどかったから
　　もっと頑張ることが必要
10　学校が嫌だから

平成30年度　学校評価アンケート（３年生対象）

平成31年１月実施　回答者数（201名）

		おおいにそう思う・だいたいそう思う（%）	平均値（４段階）
1	自分の適性や進路目標にふさわしいコースが設定されている。	98.5	3.4
2	個人面接、進路見学会や進路相談会などを通じて、進路について考えることができる。	98.5	3.5
3	体育祭や文化祭などの学校行事では、自発的に活動できるようになっている。	98.5	3.5
4	部活動や課外などで、放課後の時間を有意義に使うことができるようになっている。	99.5	3.5
5	ボランティア活動に参加する機会が多くあり、自主的に活動できる環境が整っている。	98.5	3.4
6	差別やいじめを許さない学習環境で、安心して過ごすことができる。	98.6	3.5
7	悩みがあれば、いつでも相談でき、アドバイスや支援を受けられる。	99.0	3.4
8	定期考査、課題テスト、漢字・英単語テストに向けて、よく頑張った。	97.5	3.4
9	授業や課外での先生方の学習指導は、熱心で適切である。	99.0	3.4
10	琴平高校での高校生活に満足している。	99.5	3.5



アンケートで2または1を選択した理由

1　将来について迷っているから
2　考えていないから
5　部活が大変で活動できなかった
6　対応がずさん
7　相談できないと思う
8　むずかしい

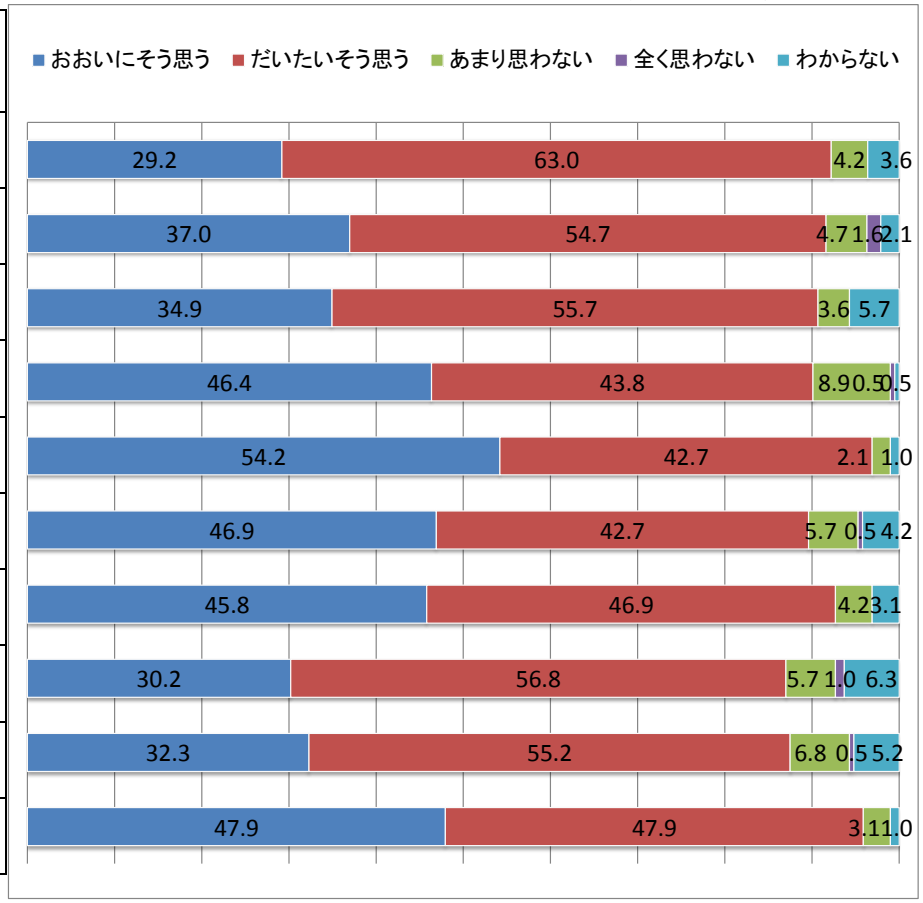
高校生活を振り返り、学校や後輩に伝えたいこと

・色々と楽しい3年間でした。今後もこの学校の良いところを残していってほしい。
・勉強をやるときはやる、遊ぶときは遊ぶでめりはりつけるべし！
・やりたいことはやっておこう。　・勉強を頑張る。　・琴高最高
・毎日がすごく楽しい　・部活動以外楽しかったです。
・やる事はきちんとやる事が大切。
・文化祭や体育祭が少し味気なく感じるので、進化させていって。
・今を楽しんでください。　・青春を楽しめ！
・早めに自分の進路を決め、早めに勉強するようにしましょう。
・部活は真面目に熱心にいこう。　・あと少しの高校生活頑張ります。
・部活動は、大変だけど、やったほうが充実して過ごせると思います。
・1つ1つの行事を大事にしておく。　・有意義な高校生活を。

平成30年度　学校評価アンケート（3年生保護者対象）

平成31年1月実施　回答者数（192名）

		おおいにそう思う・だいたいそう思う（%）	平均値（4段階）
1	生活面の指導により、きちんとした生活態度やマナーが身についた。	92.2	3.3
2	コース選択や進路決定に向けて、適切な指導やアドバイスを受けた。	91.7	3.3
3	進路見学会や進路相談会は、進路について考える上で有意義であった。	90.6	3.3
4	定期考査、課題テスト、漢字・英単語テストに向けて、よく頑張った。	90.2	3.4
5	体育祭や文化祭などの学校行事に、積極的に参加した。	96.9	3.5
6	部活動やボランティア活動など、自主的な活動を通じて心身ともに成長した。	89.6	3.4
7	差別やいじめを許さない環境で、安心して過ごすことができた。	92.7	3.4
8	悩みがあれば、いつでも相談でき、アドバイスや支援を受けられる環境にあった。	87.0	3.2
9	学校からの文書やホームページを通じて、琴平高校のことをよく知ることができた。	87.5	3.3
10	琴平高校での高校生活に満足している。	95.8	3.5

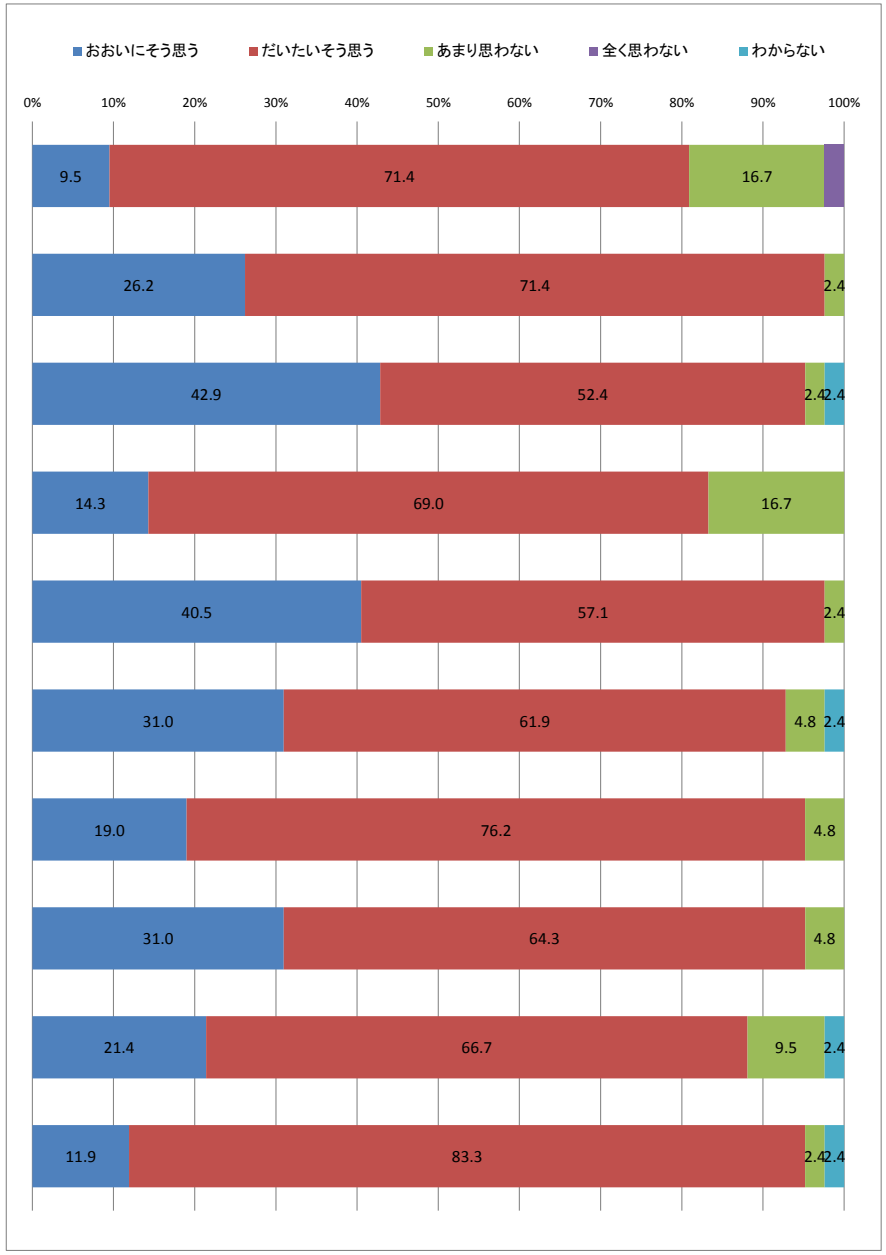


その他のご意見

・他校のように高校から直接保護者へメールにて連絡があると便利だし、より保護者側に伝わると思います。
・琴平高校での３年間はとても安心でき、先生方の信頼もあり、琴平高校に進学できてよかったと思います。担任の先生には親も子も何でも話ができ本当に助かりました。ありがとうございました。
・３年間、担任の先生方はじめ、スクールカウンセラーの先生等、子どもの為に常に気を掛け、保護者と連携を取り続けて下さりありがとうございました。本人の努力不足や自分に甘すぎる面から、多々問題行動を起こしましたが、その都度根気強く指導していただけた事感謝しています。お世話になりました。
・学力の向上はできていない。本人のやる気の問題だが、やる気を引き出してもらいたかった。
・もう少し厳しい指導をしてほしい。生徒が先生のことをナメ過ぎていると思います。
・友人関係は良好であったこと、子どもは子どもなりに状況に上手く対応し努力したと思っている。
・進学クラスなのに他のクラスと一緒に授業をするのはおかしい。
・友人との間でトラブルがあったが、自分自身を見つめる機会となり、成長を手助けして頂ける指導に感謝しています。
・先生や友達に恵まれ、息子にとってとても有意義な高校生活だったと思います。
・修学旅行ブログは大変ありがたかったです。写真もたくさんアップして下さり、先生も大変だったと思います。本当にありがとうございました。

平成30年度　学校評価アンケート（教員対象）

平成31年１月実施　回答者数（42名）

		あてはまる・おおむねあてはまる（%）	平均値（4段階）
1	生活面の指導により、きちんとした生活態度やマナーが身についた。	80.9	2.9
2	コース選択や進路決定に向けて、適切な指導やアドバイスを受けた。	97.6	3.2
3	進路見学会や進路相談会は、進路について考える上で有意義であった。	95.3	3.4
4	定期考査、課題テスト、漢字・英単語テストに向けて、よく頑張った。	83.3	3.0
5	体育祭や文化祭などの学校行事に、積極的に参加した。	97.6	3.0
6	部活動やボランティア活動など、自主的な活動を通じて心身ともに成長した。	92.9	3.3
7	差別やいじめを許さない環境で、安心して過ごすことができた。	95.2	3.1
8	悩みがあれば、いつでも相談でき、アドバイスや支援を受けられる環境にあった。	95.3	3.3
9	学校からの文書やホームページを通じて、琴平高校のことをよく知ることができた。	88.1	3.1
10	琴平高校での高校生活に満足している。	88.1	3.1

（※０「わからない」については理由の記述はない）